

循環型社会の構築のための活動事例

- 1 自治体名 大韓民国忠清南道
- 2 発表者名（所属名） ユムンギル、イギルホ（大川中学校）

3 発表要旨

一地域、一国で発生する環境汚染は、発生地域だけでなく全世界的に大きな問題になっているため、環境保全は、環境にやさしい時代になるための重要な課題である。

このような環境汚染を解決するために環境汚染の実態を明らかにして、周辺にある小さなことから実践しなければならない。したがって、私たちはこの発表を通じて学生たちが学校と家庭で実践できる幾つかの事例を紹介する。

(1) 学校内での実施事例

① 制服、体操着、学習参考書を後輩に譲る

先輩から譲り受けることによって資源の節約と同時に、先輩の生活ぶりをうかがうことができ自分自身を反省する良い機会である。

② 学校の庭園に好きな植物を植える

植物を育てることで環境に親しむことができ、また自然を大切にする心が芽生える。

③ 学校の周辺を清掃する

毎週月曜日、学級活動の時間に二つの班が学校の周辺を積極的に清掃し、環境をきれいにする努力をしている。

④ 環境保全の行事などに参加する

学校で主催する自然観察研究大会、環境作文の作成、環境保全授業など環境に関する行事に積極的に参加して、環境保全の方法を習得し環境保全を実施する意識をさらに強くする。

(2) 家庭での実施事例

① 使い捨て商品使用の自粛

使い捨て商品は土壌中で分解しにくいものが多く、土壌汚染の主原因になるにもかかわらず使用する人が多い。したがって、私たちは非効率性を認識しその使用を減らしている。

② リサイクルをして資源を節約

廃油を捨てずに石けんを作って使用するなど、使えない廃品をリサイクルして使うことで、環境汚染への予防はもちろん経済的にも助けられるので、私たちの学校ではみんなが努力して実施している。

③ 水の節水

トイレのタンクの中にレンガを入れること、歯みがきの時、カップに水を入れて使うこと、シャワーをあびる時水をずっと流さないこと、石けんを無駄使いないことなど、私たちの生活になくってはならない水を節約し、また汚染しないように努力して実施している。

最近、環境汚染は私たちの問題だけではなく、全世界的にも深刻な問題となっているにもかかわらず、大抵の人々はその深刻さを悟ることができず「誰かがするだろう」という旧態依然とした考えを持っている。

私たち大川中学校の学生たちは、このような考え方を変えることを目標として、前に述べたように学校と家庭で環境保全に対し、小さなことから実施している。

「ちりも積もれば山となる」と言うことわざがある。各家で分別回収され集まったごみが循環資源として使われることを望んでいる。このシンポジウムが、今日ここに集まった北東アジア地域の5ヶ国を含む全世界に、環境の大切さを広く知らせるきっかけになって欲しいと思う。